

主の再臨

主は愛せらるゝ者よ今我茲に述べんとする事の爾曹各自の禍福は直接ある關係ある一大問題なれば祈禱の中は謙遜嚴肅且熱心ある誠意を以て之を讀み主の爾を告げ給ふ所を聽け

(一) 聖書を貫徹せる一大要目

主イエスを將に此世を去り給はんとするに當り弟子等告て曰給はく「我爾曹の爲に所を備へよ往く若し往きて我爾曹の爲に所を備へば復來りて爾曹を我に納くべし我が居る所に爾曹をも居らしめん」となりと(約十四〇二、三)主死より甦り四十日の後天よ昇り給ふ時集り居たる者仰ぎ視たりしは白衣を着ある二人の人あり傍よ立ち曰けるは「カリヤ人よ何故に天を仰ぎて立てるや爾曹を離きて天よ擧げらるべし此イエスの爾曹が彼の天よ昇るを見る其如く亦來らんと(徒一〇十一)パウロ曰く我儕の國は天に在り我儕の教主即イエス、キリストの其處より來るを待つと(腓三〇廿)ペテロ曰く爾曹

心の腰に帯いて懐みイエス、キリストの顯を給ふ時爾曹に來らんとする恩恵を疑はず
して望むべしと(彼前一〇十三)ヨハネ曰く小子よ恒に主に居るべし其顯のるゝ時に我
儕懼ることなく其臨る時に其前に耻づることなからん爲あり(約壹二〇廿八)モーセ
(申卅三〇二)ダビデ(詩百二〇十六)イザヤ(賽五九〇廿、六十〇一)エレミア(耶廿三〇
五六)ダニエル(但七〇十三)ザカリア(亞十四〇四、五)其他凡ての預言者も使徒も口を
揃へて主の再臨を説けり眼を開きて聖書を讀まば舊約書中に於ての主の初降臨(千八
百余年前に成就せり)の預言よりも寧ろ再降臨(尙未來にあり)に關する預言多く新約
書に至りての各書懇々反覆主の再臨を説くざるゝか聖書を讀みながら此一大事を悟
らざるゝ輕々にして神の言を讀過するれ人にあらずば茫莫ある自己の臆説を以て妄り
に聖書を解釋する人あり我兄弟よ爾の斯の如き人とあるべからず爾をして此一大事を
對岸の火災視せしめ慰樂も痛痒をも感せずらしめんとする者のこれ實に惡魔ありと知
れ

(二) 主の再臨の死と異なり

或信者の以爲かく我等各一たび死せざるべからず其日我等の靈魂此波風荒き浮世を脱
して照り輝ける主の御前に行きて樂まん是即ち各自の上に主の來り給ふことあり其後
の事如何に至りての我等の知る所にあらずと吁是れ恰も神道の高天原佛教の極樂説の
如きのみ神の子よ爾の異邦人の教旨を受くべからず須らく主の言を聴き之を受入るべ
し路加傳廿三〇四三によりて信者が此世を去る時の其靈魂主と偕にパラダイスに行く
と明かあり信者の死の勿論悲むべきことにあらず主に在りて死る死人の福あり靈も亦
いふ然り彼等の其勞苦を止めて息まん其功これに隨ひんと(黙十四〇十三)されど其報
を受け樂む事の時あり義しき人々の甦らん其時爾曹に報譽あればあり(路十四〇
十四)是即ち主イエスの再び來り給ふ時なり『なんぢら牧者の長の顯れん時に壞るゝ
ことなき榮の冠冕を得ん(彼前五〇四)』今より後義の冕わが爲に備へあり主即ち正し
き審判をなす者の日に至りて之を我に與ふ獨我に與るのみならず凡て彼の顯るゝ

を慕ふ者にも與ふべし(提後四〇八)故に各信者及教會の樂み待ち望むべきもの、死に
 わら^いずして主の再臨なり我儕この幕屋(肉躰)にをり重を負て歎くなり之を衣の如く脱
 がんこと(死によりて靈の躰より離るゝ事)我欲せず彼を衣の如く着んと(主の再臨に
 より死せずして榮光の躰に化すること)を欲ふ是生に死ぬべき者の吞まきんが爲なり
 (哥後五〇四)尙次を熟讀し主の臨り給ふ時死せずして天に昇る人あることに注意せよ

(三) 聖徒及教會の望

愛するよ我儕今神の子たり後如何未だ露れず其現れん時に必ず神に肖んことを知る
 ろ我儕の眞の狀を見るべければなり(約壹三〇二)我儕が常に最も愛する主の晚餐
 の何の爲ぞや『爾曹このパンを食し此杯を飲むことに主の死を表して其來る時までに
 及ぶあり(哥前十一〇廿六)彼の爾曹の望む所の榮の望あり(西一〇廿七)茲に注意せべ
 き、甦及主の來り給ふ事の死後各人箇々の上に別々の時日及方法を以て靈魂的無形に
 成就するものにあらざして其序に順ひ一般に關する有形の出來事なる事なり』『われ主

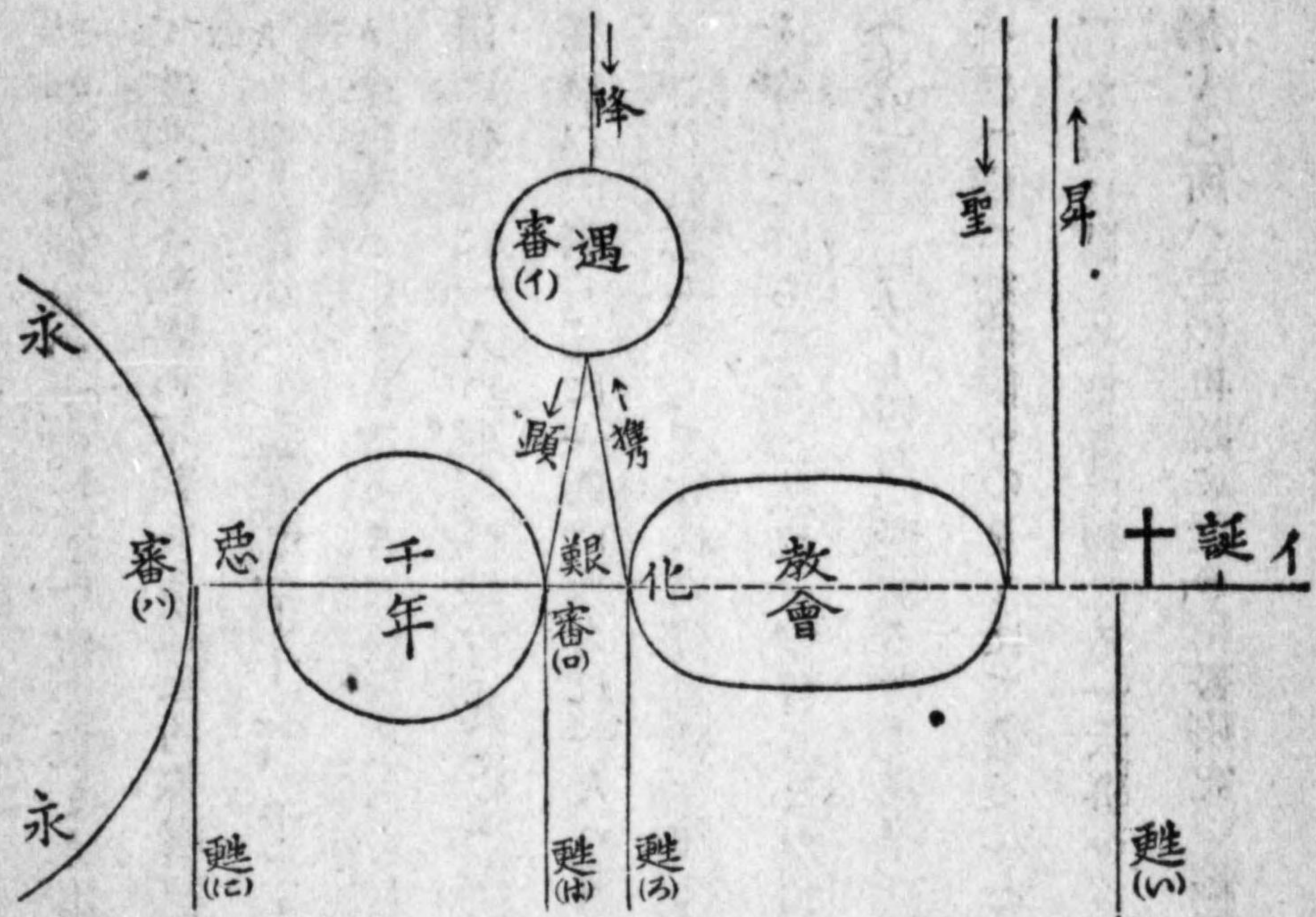
號令と使長の聲と神の筈を以て自ら天より降らん其時キリストに在りて死し者先に甦
 り後に活て存る我儕彼等と偕に雲に携へられ空中に於て主に遇ふべし斯て我儕いつま
 でも主と偕に居らん(撒前四〇十六、十七)視よ我爾曹に奧義を告ん我儕盡く寢るに非
 ず我儕皆末の筈の响らんととき忽ち瞬息間に化せん蓋甦ならんとき死し人甦りて壞ず我
 儕も亦化すべければなり(哥前十五〇五一、五二)其時我儕聲を合せ死よ爾の刺の安に
 在るや陰府よ爾の勝の安に在るやと歌ひつゝ天に昇らん吁我儕顧みてシナイ山より發
 せる律法の光の下に既往の罪惡を追懷せば身も心も碎くるが如くカルバリ山上十字架
 の麓に伏せば感恩の涙止る所を知らず仰て將に榮光を以て再び臨りシオンの山に立た
 んとし給ふ主を待ち望む其快樂の言ひ難く且榮光ありハレルーヤ主イエスよ來り給へ
 アーメン

(四) 此世の末期

茲に又或多數の信者の以爲らく此世界の益文明に赴き基督教全地に普及し遂に万人皆

悔改めて神を信じキリストを信するに至り以て所謂黄全世界を現出せん是即ち神の聖國ありと吁是何等の空想ぞや悲哉此種の人に限り主の再臨の一事を決して深く其念頭に留めざるなり聖靈教へて言給ひく末の日至らば戲謔者出で來り己の慾に従ひて行み主の約束し給し其臨る何處に在るや列祖は寢りしより以來すべての物開闢の始と變ることなしと云ひん(彼後三〇三、四)惡人と人を欺く人の益惡に進み人を惑ひし亦人に惑はさる(提後三〇十三)ノアの時の如く人の子の來るも亦然らん夫れ洪水の前ノア方舟に入る日までの人々飲食嫁娶あどして洪水の來り悉く之を滅すまで知らざりき此の如く人の子も亦來らん(太廿四〇三七—三九)うの主の日の來ること盜人の夜來るが如く人々平和無事ありと言んとき亡滅忽ちに來らん(撒前五〇二、三)と我兄弟よ惡魔が寫し出す蜃氣樓を夢みて欺うるゝことあかれ此姦惡なる世の速に滅さるべきものなり福音を傳へ悔改を命ずる所以のものに恰も是れ難破船中の乗客に助け綱を投するが如く將に來らんとする大なる禍患より如何にしても彼等を救はんが爲のみ主イエス再臨の

時の即ち此世の末期にして電の東より出て西に迄閃くが如く(太廿四〇廿七)忽然として主來り不義者の不義ある迄に汚穢者の穢き儘に義者の義なる儘に聖者の聖き儘に各人に報ひ給ふべし(黙廿二〇十一、十二)其時大ある患難あり此の如き患難の世の始より今に至る迄有らざりき又後にもあらじ(太廿四〇廿一、黙六〇二十一—二十七)其時二人田に在んに一人の取られ(主と共に榮光の内に)一人の遺さるべし(苦難の中に)二人の婦磨ひき居らんに一人の取られ一人の遺さるべし是故に爾曹の主何れの時來るかを知らざれば怠らずして守れ爾曹これを知れ若し家の主人盜人何の時來るかを知らば其家を守りて破らすまじ然れば爾曹もまた預備せよ意にざる時に人の子來らんとすれば也(太廿四〇四十一—四四)愛する者よ我等の用意既に備はれる乎ア主よ我等をさぐり檢べ給へ爾の如何爾今のまゝにて懼るゝとなく善く主の臺前に立ち得る乎爾若し主の再臨が爾に關し全世界に關せる一大事あることを知らば乞ふ熱心に聖書を研究せよ今左に掲ぐる所の主の再臨に就き聖書研究の端緒を開く者なれば祈禱の中に引照を熟讀せよ



(イ) イスラエルの歴史
 (誕) エタヤ人の王イエスの誕生(太二〇二)
 (十) イエスの十字架(太廿七〇卅五)
 信者の爲に罪の審判(羅三〇廿五、全八〇一、三、哥後五〇廿一、加二〇二)

(注意)

以下の點線ハ、イスラエルの民衆の主を十字架に釘けし神の怒に觸れ四方に散らされたる故該國民の歴史中絶せるを示す(太廿三〇卅七、卅九)

(誕イ) 主イエスの誕(太廿八〇一十)
 (昇) キリストの昇天(徒一〇九)
 (聖) ヘンテコステの日聖靈の降臨(徒二〇)
 (教會) キリストの躰(弗一〇廿二、廿三、羅十二〇四、五、四一〇廿四、一廿七、哥前十二〇十二、一廿七)
 即キリストの新婦(弗五〇廿一、廿三、哥後十二〇二)
 (降) 主イエスの降臨(撒前四〇十六)新婦を納くる爲(約十四〇三)
 (誕) 義人の誕(路十四〇十四、撒前四〇十五、十六)
 (化) 生存聖徒化(哥前十五〇五一、五二)
 (携) 聖徒裏に携へられて昇る(撒前四〇十七)
 (遇) キリストと新婦との逢遇(撒前四〇十七、今後二〇二)

燕の婚姻(太廿二〇二一、廿五〇十、路十四〇十五、廿四、黙十九〇七、八)
 贖又救の完成(路廿一〇廿八、羅八〇廿三、弗四〇三十)
 (審イ) 聖徒報を受くる審判(羅十四〇十一、十二、哥前三〇八、一十五、哥前四〇一、一五、哥後五〇九、十)
 (觀) 全世界前後無比の艱苦の時(但十二〇一、太廿四〇廿一、路廿一〇廿五、廿六)
 教會は既に取り去られ此艱苦に與らば(路廿一〇卅六、彼後二〇九、黙三〇十)
 神再びイスラエルを顧み(徒十五〇十六、詩五十一〇十八)其故國に復歸せしめ給ふ(賽十一〇十一、全六十六、耶三十〇三、全三十一〇、全三十二〇卅六、一四四、歴九〇十五、羅十一〇)
 偽キリスト現はる(撒後二〇八)
 神の怒の杯傾けらる(詩二〇一、一五、黙六〇十六、十七、全十四〇十、十六)されど人々悔改めず唯神を語る(黙十六〇十一、廿一)
 イスラエルの民醒めてキリストを信ず(亞十二〇十一、十四、全十三〇六) 神之火に入れて試み給ふ(亞十三〇九) 此民廢せず(太廿四〇卅四、詩廿二〇三十)
 (顯) キリスト聖徒と共に榮光を以て地上に顯はる(西三〇四、撒前三〇十三、撒後一〇七、一十、徒一〇十一、申卅三

〇二、亞十四〇四、五、太廿四〇廿九、三十)
 (審ロ) ヨシヤバテの谷に於て地上に生ける萬民審判を受く(耳三〇一、十六、亞十四〇一、九、太廿五〇卅一、四六、全十九〇廿八、猶十四、十五) 是神の撰み給へるイスラエルの爲なり(詩百廿二〇八、民廿三〇九)
 偽キリスト滅さる(撒後二〇八)
 「サタン」縛せらる(黙廿〇一、一三、羅十六〇廿)
 (誕) 前述(觀)の時に殺されたる聖徒甦る(黙十三〇十五、全廿〇四、一六) 第一の甦全くせらる(黙廿〇六)
 (千年) 千年の間キリスト聖徒と共に地上に王なる(黙廿〇四、提後二〇十二、黙五〇十、賽二〇二、一五、全四〇、全十一〇一、一十二、今廿五〇六、一六、賽六十五〇十八、一廿五、米四〇一、一四、番三〇十四、一廿、亞八〇三、一八、全八〇廿一、廿三、全十四〇十六、一廿一)
 (惡) 「サタン」其囚より釋放され少時の後ゴブマゴブと共に滅さる(黙廿〇七、一十、來二〇十四)
 (誕) 不信者の甦(黙廿〇十二、一五、約五〇廿九、但十二〇二)
 (審ハ) 最後の審判(黙廿〇十一、一五) 死と陰府も亦滅さる(黙廿〇十四、哥前十五〇廿六)
 (永) 永遠の世(弗二〇七、黙廿一〇全廿二〇一、一七)

主は愛せらるゝ者よ茲に我儕が翻りて顧み醒めて覺るべき十九世紀末の今日に生息せる我儕の地位也或人曰く主の來り給ふ日の誰も知る者なし今日か明日の或の數百千年後なるう全く知るに由あしと是神の言と己の言と混合したるものなり第何日の何時に主が來り給ふや我等の知るべき所に非ず(太廿四一卅六)されど其時の近き事い之を覺るを得主の我儕が之を知らん事を要め給ふなり(太廿四〇卅三)主マニエルに由り詳に此世の歴史を預言して世の終の事に及ぶ而して言給く惡き者の一人も曉ることあるべし然れど穎悟者の曉るべしと(但十二〇十)黙示録二章三章に載たる教會歴史の預言の既に着々成就し來り今日の教會の正に是れ最末ラオデキアの教會なり冷かにもあらず熱くもあらずるものよ爾の戸の外に立て叩く者の誰ぞや爾を呼ぶ者の主イエスキリストにあらずや提後三章末世の日の預言の是今日の寫真なり太廿四章に於て主の告げ給へる世の末の兆ある戦争、饑饉、疫病、地震、キリスト信者の迫害多くの偽預言者出る事等盡く我儕が之を眼にし耳にする所也預言の年期とユダヤ人の運動との異邦人

の時(路廿一〇廿四)將に満ちんとすることを示し主の再臨の日の切迫せるを告ぐ主言ひ給ひく夫爾曹無花果樹に由りて譬を學べ其枝すでに柔かにして葉萌めば夏の近きを知れ此の如く爾曹も凡て此等の事を見れば時近く門口に至ると知れと(太廿四〇卅二、卅三)斯くても我儕若し主の來る日尙遠しと言ひば主の言ひ給ひん偽善者よ空の景色を別つことを知りて時の休徴を別ち能はざるかと(太十六〇三二)斥候よ夜の何の時ぞものみよ夜の何の時ぞ斥候答へていふ朝來り夜また來ると(賽廿一〇十一、十二)やがて曙の明星(黙廿二〇十六)一たび顯れたらんには聖き神の民の爲に是れ喜樂の朝たらん神を敬はざる不義者に是れ惱苦の夜たらん我儕の時を知れり夜とでに央けて日近けり今の寐より寤むべきの時あり(羅十三〇十一、十二)

兄弟よ今の我良心聖靈に感じて主の民を思ふこと切なり願ひくは主爾の心を開き此一大事の眼前に迫れる事を信せしめ之が預備を爲さしめ給ひんことを凡そ神に由れる此望を懷く者の其潔きが如く自己を潔す(約壹三〇三)心の清き者の福なり其人の神を見

ることを得なければなり(太五〇八)されど人若し潔からずバ主に見ゆることを得ざる也(來十二〇十四)兄弟よ爾の全く潔き乎若し一點にても汚れあらば今世と肉とに附ける物を全く捨て爾を凡ての罪より潔むるキリストの血(約壹一〇七)を信して主の聖潔を受けよ○爾の斷へず醒めて祈りつゝあるや今若し主來り給ひ、爾の不意を打たれ夜盜に逢ふが如きの感なきや(撒前五〇二、四)馬太廿五章一―十三を見て自己を警めよ爾の其器に聖靈なる油を有せるや神を愛し隣を愛するの熱火の爾の燈を燃し輝かしめつゝあるや時に及びて糧を彼等に予へさする爲に主人がその僕等の上に立てたる忠義にして智き僕の誰ある乎その主人の來らん時うくの如く勤むるを見らるゝ僕の福也(太廿四〇四五、四六)○我れ新しき誠を爾曹に予ふ即ち爾曹相愛すべしとの是なり我が爾曹を愛する如く爾曹も相愛すべし(約十三〇三四、三五)願ひく主爾曹の愛を増し且満たしめ爾曹をして互に愛し衆の人を愛すること我儕が爾曹を愛する如くならしめて主の來らん時父なる神の前に責むべき所ありらしめんことを(撒前三〇十二、十三)

主命じて言ひ給ひけるの徧く世界を廻りて凡の人に福音を宣傳へよと(可十六〇十五) 吁牧ふ者も亦羊の如く憐み又流離にありたる此哀れなる衆人を如何彼等の爲に泣き給ふ主を見上げなば我等あどく黙し居ることを得べき主よ我此に在り我を遣ひし給へ兄弟よ時既に迫れり主言ひ給ひく道路や籬籬の邊に行き強て人々を引來り我家に盈たしめよ(路十四〇廿三)天國の此福音を萬民に証せん爲に普く天下に宣傳へられん然る後末期至るべしと(太廿四〇十四)一人の靈魂福音を耳にする毎に主の來り給ふ日近づくこと知れ況んや其人の救ひるゝに於てをや○兄弟よ主に從へ彼と偕に悲みの人となりグッセマ子の園にも行けカルバリの山にも上れ常に主に居れ(約六〇五六、全十五〇五) 勵み起ちて信仰の道を守り善き戦を戦ひ馳るべき途程を盡せ主言ひ給ひく「夫れ我の世の末まで常に爾曹と偕に在る也と(太廿八〇廿)兄弟よ假令人の爾を伎倆あり成功ある傳道者也と賞揚せずとも爾が主の臺前に立たん時彼の爾を顧みて喜び言ひ給はんのあゝ善日忠義なる僕ぞ爾寡ある事に忠かり我爾に多きものを督らせん爾の主人の歡樂

に入れよと(太廿五〇廿一)其時爾が曾て人識れず主に導きたる罪人の靈魂の爾の冠の玉となり世々に照り輝かん「兄弟よ忍べ爾曹の心を堅くせよ蓋主の臨り給ふと近づけば也(雅五〇八)今片時ありて来る者來らん必ず遅からん義人の信仰に由りて生くべし若し退かば我靈魂之を喜とせト(來十〇卅七、卅八)我儕若し彼と偕に苦を受けかば彼と偕に榮をも受くべしわれ意ふに今の時の苦みの我儕に顯れん榮に比ぶべきに非ず(羅八〇十七、十八)願わくは平安の神爾曹を全く潔くし又爾曹の全靈全生全身を守りて我儕の主イエスキリストの臨らん時に咎なうらしめ給はんことを爾曹を召く者の誠信ある者なり彼此事を成し給はん(撒前五〇廿四、廿五)此事を証する者曰ける我必ず速に至らんとアーマン主イエスよ來り給へ(黙廿二〇廿)

明治廿七年十二月廿八日印刷
同 二十八年一月一日發行

東京芝區田村町二十二番地

三重縣平民

著述兼發行人

笹尾 鐵三郎

東京京橋區南小田原町一丁目七番地

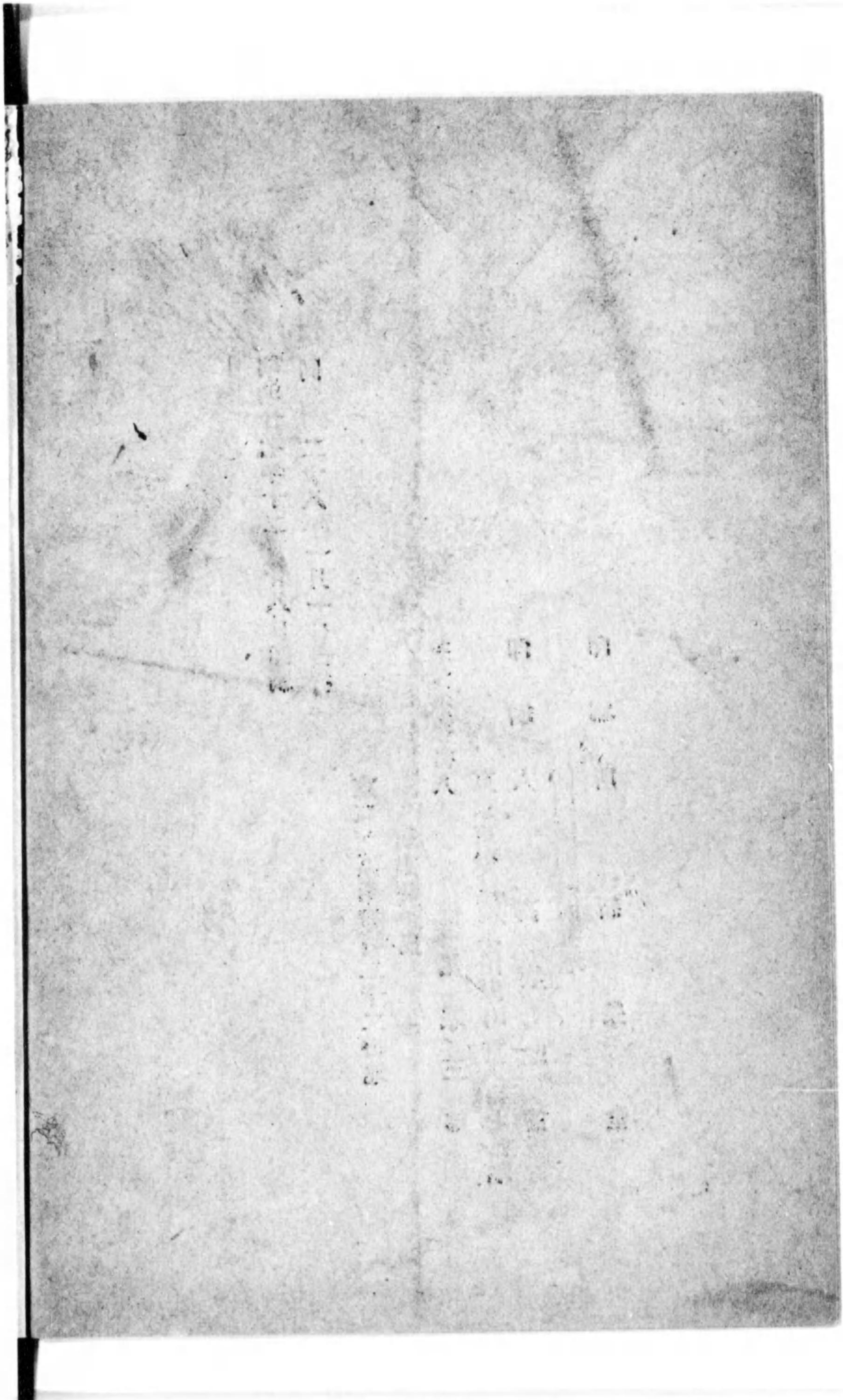
印刷人

高坂 駒重

同同區同町同番地

印刷所

新 榮 堂



166
197

主
の
再
臨

020735-000-0

特16-460

主の再臨

笹尾 鉄三郎/著

M28

ABI-0555

